

〇〇市 〇〇地区 (または〇〇自主防災組織) 地区防災計画 (孤立地域版)



1. 基本情報 (〇〇年〇月〇日現在)

〇〇地区 (または〇〇自主防災組織)	
自主防災会 会長	〇〇 〇〇
自主防災会 副会長	〇〇 〇〇

年間 スケジュール	
4月	
5月	
6月	・土砂災害対策訓練

災害履歴
(地震による被害)
・1854年12月23日 (安政元年)
安政東海地震
〇〇地域、〇〇地域で家屋倒壊〇戸
・2009年8月11日 (平成21年)
駿河湾を震源とする地震
〇〇地域、〇〇地域で土砂崩れ。
・2011年3月11日 (平成23年)
東日本大震災

過去の災害被害を知る

目的: 孤立が発生した場合に備える!

8月	
9月	・総合防災訓練
10月	
11月	
12月	・地域防災訓練
1月	
2月	
3月	・津波避難訓練

参加の呼びかけ

・1974年7月7日 (昭和49年)
七夕豪雨
〇〇地域、〇〇地域で浸水被害。
床上〇戸、床下〇戸
〇〇山で土砂崩れ。
全壊〇戸、半壊〇戸
・2022年9月23日 (令和4年)
台風15号
〇〇地域、〇〇地域で浸水被害。
床上〇戸、床下〇戸
全域で断水

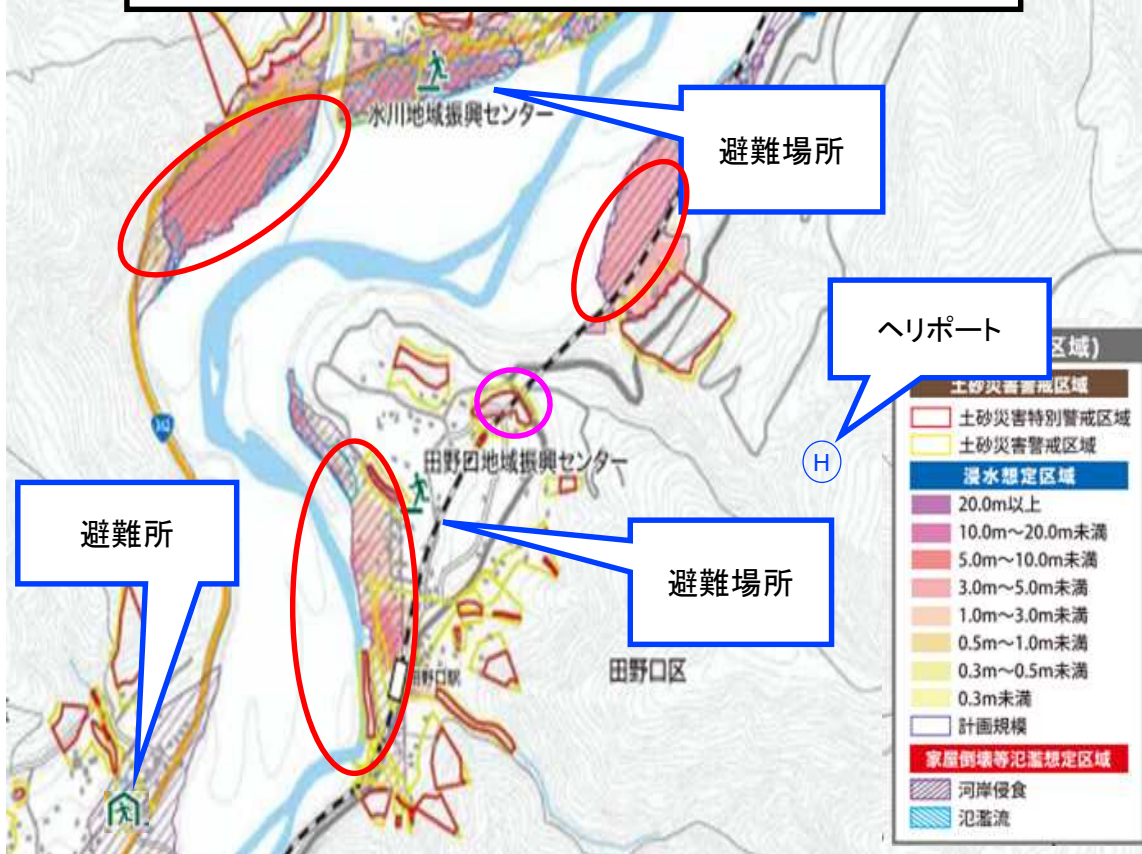
緊急連絡先	
自主防災会会長	〇〇 〇〇
自主防災会副会長	〇〇 〇〇
〇〇病院	#####-##-#####
〇〇メディカルセンター	#####-##-#####
〇〇医院	#####-##-#####

2. ハザードマップ(〇〇年〇月〇日現在)

土砂災害、洪水、津波ハザードマップ

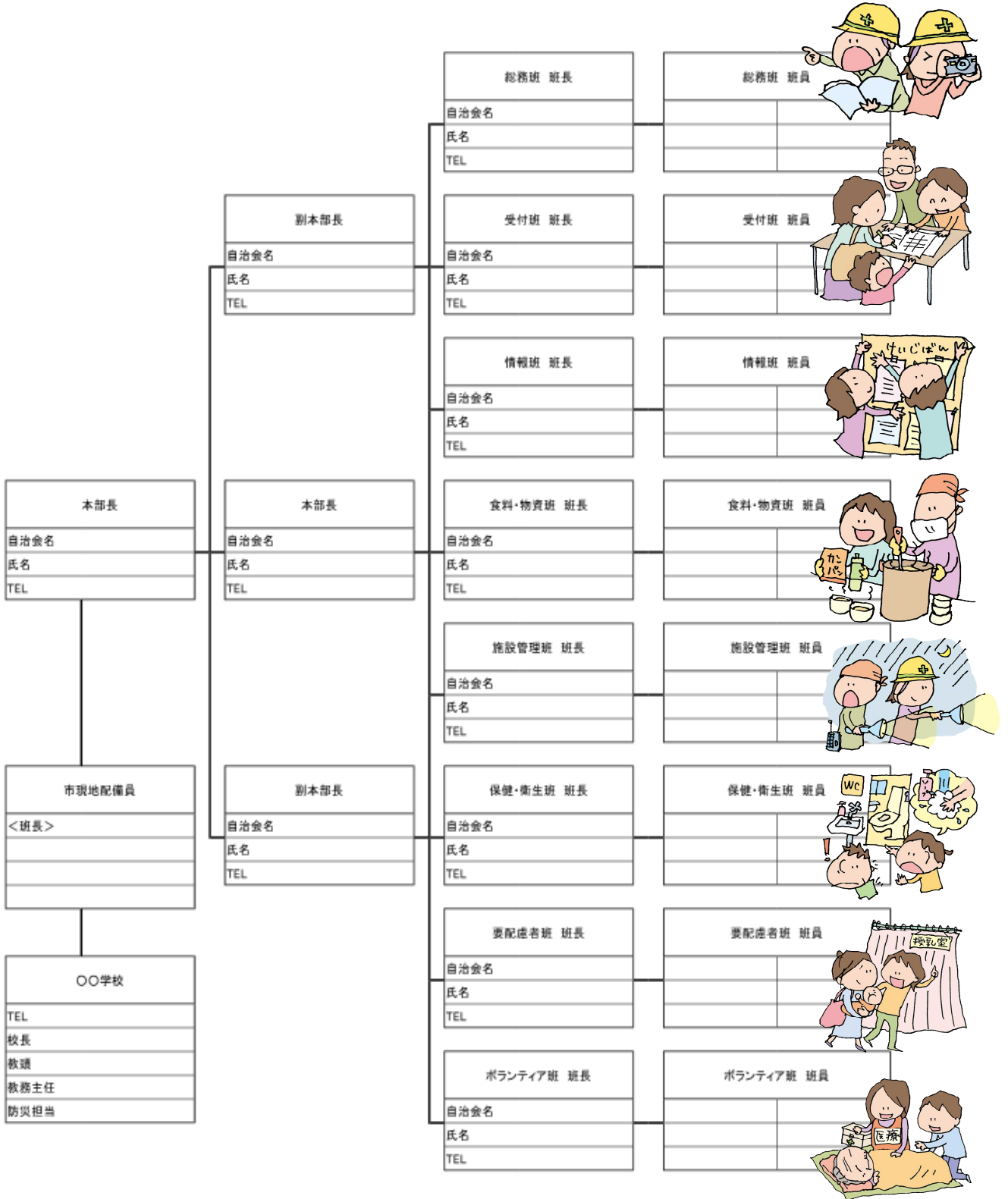
★作成のポイント★ 孤立予想箇所～避難予定箇所までの範囲が載った図にする
(不通予想区間を確認) 必要に応じて、集落周辺の拡大図を付ける

道路寸断の恐れがある危険箇所・・・ ○
 孤立の可能性がある集落・・・ ○
 避難所・ヘリポート(救助・物資搬送予定箇所) □




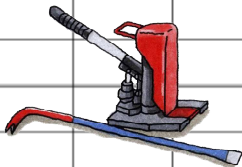


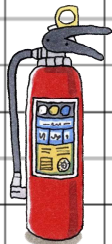
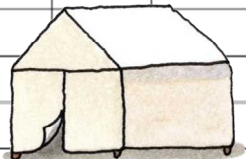

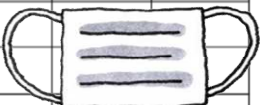
避難場所連絡先			その他連絡先(役所、消防、警察等)		
施設名	住所	電話番号	施設名	住所	電話番号
避難所連絡先					
施設名	住所	電話番号			

3. 自主防災組織図(〇〇年〇月〇日現在)

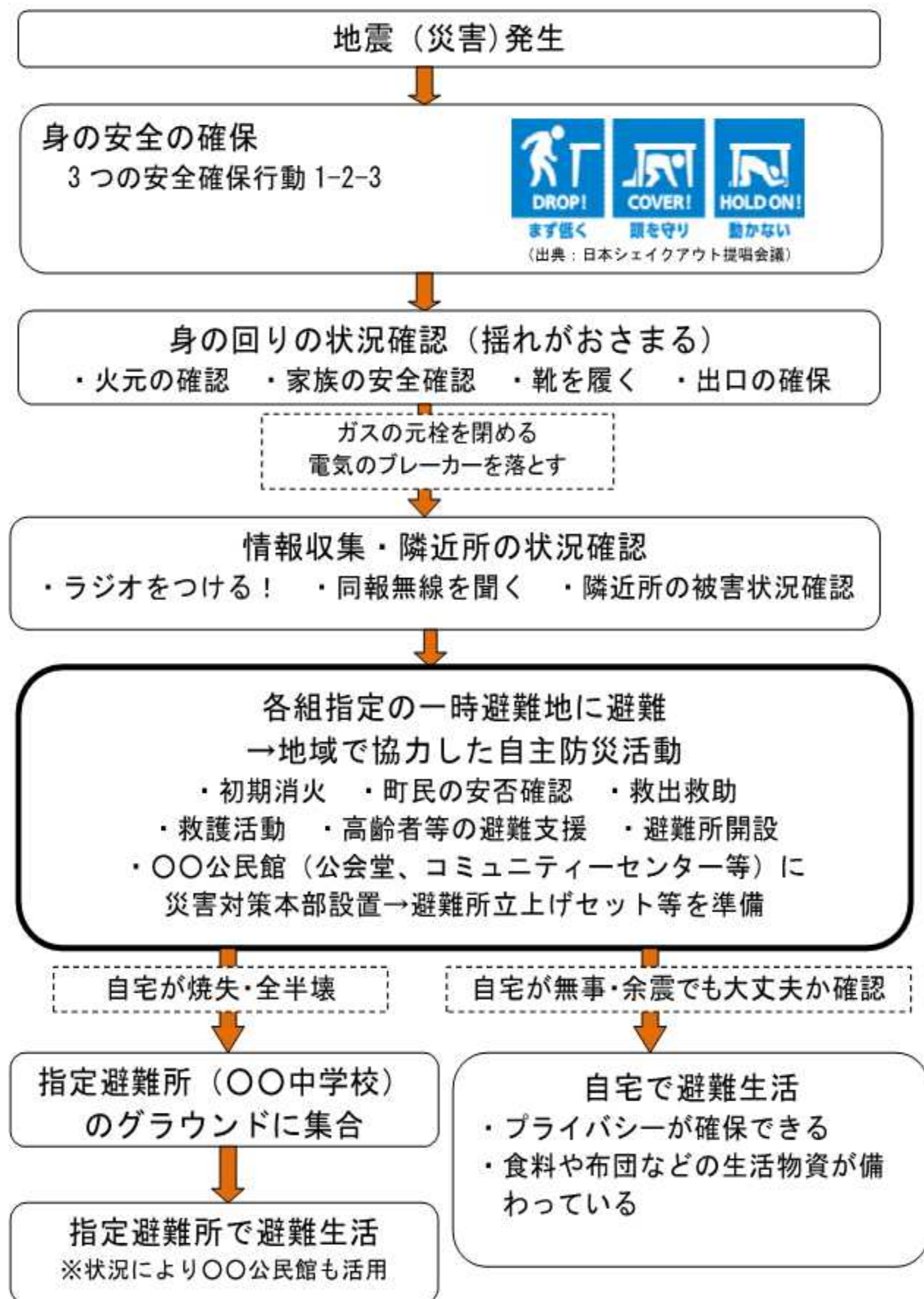


4. 防災倉庫資機材・備蓄一覧(〇〇年〇月〇日現在)

番号	防災倉庫の所在地	鍵の管理	住所	電話
1				
2				

種別	品目	防災倉庫番号		合計	種別	品目	防災倉庫番号		合計
		1	2				1	2	
応急救助	エンジンカッター				汎用	ソーラー発電機			
	チェーンソー					小型発電機			
	ジャッキ					乾電池 (単一)			
	スコップ					乾電池 (単二)			
	つるはし					乾電池 (単三)			
	リヤカー					乾電池 (単四)			
	一輪車					強力ライト			
	ゴムボート					土のう袋			
救急救命	担架				避難生活	食料			
	応急セット					水			
	三角巾					受水槽			
						そ水器			
初期消火					釜				
	消化器				鍋				
	バケツ				テント・天幕				
	可搬ポンプ				ビニールシート				
					仮設トイレ				
				排便収納袋					
情報					毛布				
	電池式拡声器								
	無線機								
	腕章								
					その他				

5. 災害発生時の避難行動



6. 自主防災組織の体制(警報発表時等の参集・配備)

●大雨・洪水レベル3発表時

各自が気象状況や避難情報、避難所開設情報等を収集、自主防災組織のLINEグループ等において共有→判断に応じて〇〇公民館(コミュニティセンター等)に参集・対応開始する。

●大雨・洪水レベル4発表時

身の安全を優先した対応に切り替え、引き続き、LINEグループ等で町内の情報収集を行う。

●大雨・洪水レベル5発表時

すでに災害が発生しているものとし、安全の確保を最優先とする。その上でLINEグループ等で情報共有をす行う。

※最新の気象情報を確認しながら、今後の対応についてLINEグループ等で相談する。

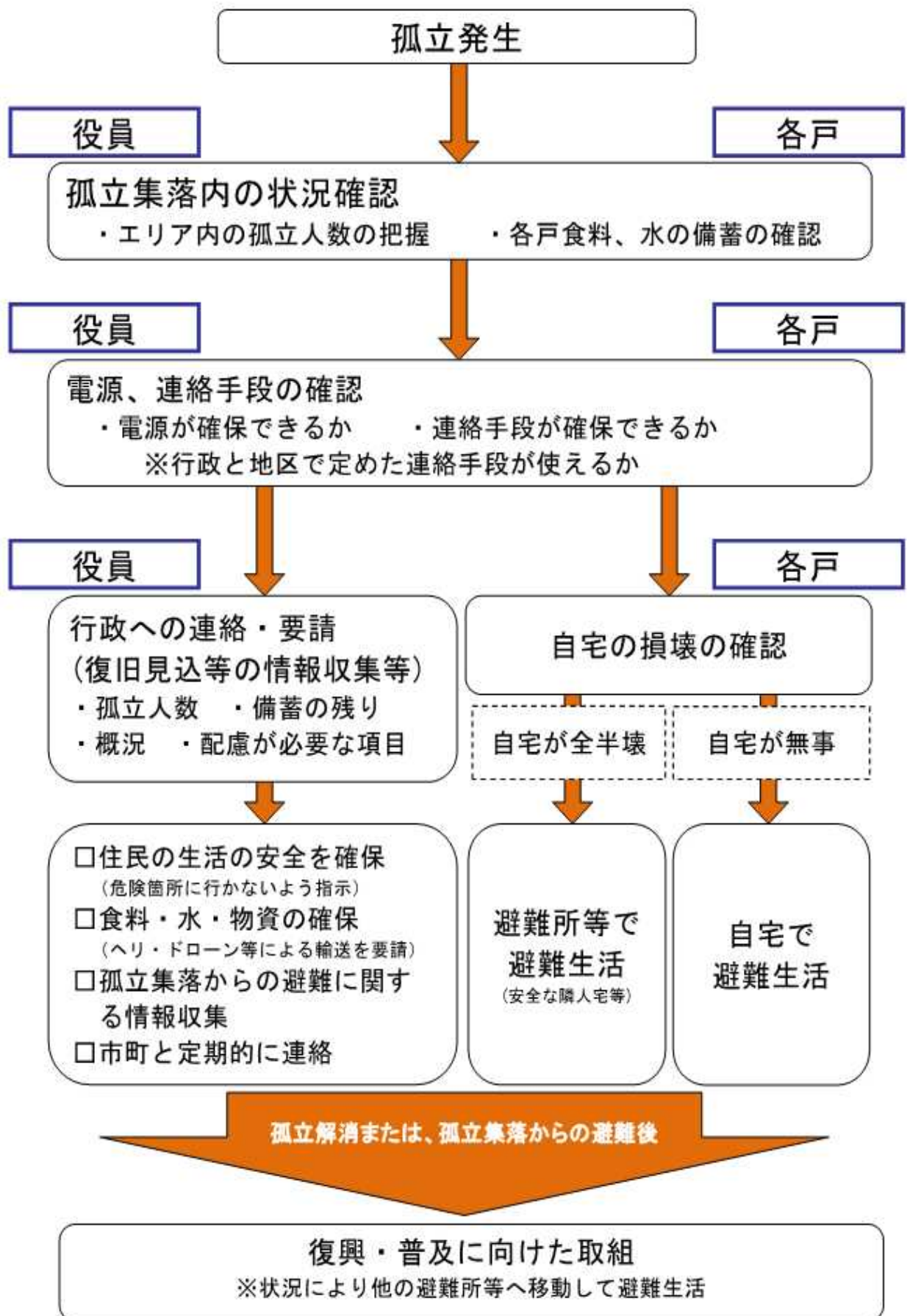
●地震(震度5強以上)

各自が地震と家族の安全が確認できたら公民館(コミュニティセンター等)に参集。救出救護・火災活動や被害確認等にあたる。

●津波(津波警報・大津波警報)

各自津波避難場所、高台、津波避難施設へ避難。事前に決めた防災委員、又は、協力住民により避難行動要支援者を避難させる。安全が確認できたら公民館(コミュニティセンター)に参集。救出救護・消火活動や被害確認等にあたる。

8. 孤立発生時の対応



9. 家族・個人の取組

備蓄の確保 常時7日以上を確保

通信・電源（ライフライン）が喪失した場合でも、各戸生活が可能な準備を！

7日分以上の非常食

7日分以上の水

カセットコンロ、カセットボンベ、着火剤（ライター等）

衣類

7日分以上の携帯トイレ（断水した場合）「1人1日 **5回** × **7日分** × 家族の**人数**」

携帯ラジオ

充電器 ※非常用発電機が地区にある場合

※ローリングストックをし、消費しながら備蓄品を毎年更新しよう！



家具を固定しよう！

家族で、家と周辺の危険箇所・避難経路を確認し、共有していこう！

「わたしの避難計画」の作成をしよう！

周囲の音や異変に気づいたら、危険箇所から速やかに早く離れ、身の安全を図る。

「わたしの避難計画」の作成

//全ての家庭で実践//

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/1040812/1029856.html>

